

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第14回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和2年12月15日(火)11時10分～12時10分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：西田（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、丹羽（〃）、平岡（セコム）、
齊藤（筑波大学）、大塚（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

（1）第3回レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム開催について

遠藤副会長から、資料1-1～1-2に基づき、第3回シンポジウム開催概要の説明があり、原案で未定となっていた項目について、検討の結果、次のとおり決定した。

- 開催方法：ハイブリッド（Zoom ウェビナー＋筑波大学東京キャンパス文京校舎）
- 登壇者：開会挨拶者→ 岡島委員
閉会挨拶者→ 林会長
パネルディスカッションモデレーター→ 遠藤副会長
- 英語タイトル：“Building Risk Resilience to the COVID-19 Pandemic”
- パネルディスカッションテーマ：（日）「New Normal を見据えたリスク・レジリエンスのあり方」
（英）筑波大学で検討

また、今後オンサイト会場の受入人数について状況を見つつ検討すること、広報・後援依頼・参画機関への周知を進めていくことが確認された。

（2）コンソーシアムと協力機関による合同ミーティング開催報告

遠藤副会長から、資料2-1～2-2に基づき、10月29日に開催された合同ミーティングの報告があった。当日は参画機関・協力機関から60名超の参加があり、各機関から話題提供頂けた一方で、質疑・意見交換の時間が十分に取れなかったことが課題として共有された。また、開催後に協力機関へR²EC準会員入会案内を送り、現在回答待ちである旨情報共有があった。

（3）令和3年度活動計画（案）について

遠藤副会長から、資料3-1～3-2に基づき、次年度の活動計画の大枠について説明があり、次のとおり一部追加することで承認された。

- 第4回シンポジウム：10月末頃。第11回運営委員会・第18回幹事会と同日開催予定。

（4）ノベルティグッズの制作について

遠藤副会長から、資料4に基づき、R²ECのクリアファイルを作成している旨説明があった。3種類のデザイン案（A～C案）を検討した結果、C案を一部修正することで承認された。

(5) その他

遠藤副会長から、R²EC 準会員入会を打診したフランスのグルノーブル・アルプス大学（UGA）より、正会員としての入会希望があった旨、情報共有があった。まずは 12 月 18 日（金）に筑波大学と UGA でミーティングをもち、コンソーシアム入会についての意思確認や具体的な参画分野等のヒアリングを行う予定である旨、説明があった。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 「原子力規制人材育成事業」の申請について

遠藤副会長・岡島委員から、資料 5-1～5-3 に基づき、リスク・レジリエンス工学学位プログラムと構造エネルギー工学学位プログラムを中心に、システム情報工学研究群として令和 2 年度「原子力規制人材育成事業（採択されれば R2～6 年度の 5 年間で実施）」に申請した旨の報告があった。本事業は既存の 2 学位プログラムの教育体制や授業を生かし、当該学位プログラムの中にコースを新設するものであり、基本的に協働大学院教員やコンソーシアムに新たな負担は生じないことが確認された。

(2) インターンシッププログラム参加留学生の輸出安全管理について

岡島委員から、留学生が参画機関でインターンシップを行う際の輸出安全管理面の取り扱いについて、現状は各機関の判断に委ねているため、今後の対応を検討したい旨提案があった。意見交換の結果、当面は各機関との個別調整により対応しつつ、次回の運営委員会（2 月）で、運営委員会構成員の意向を確認することとなった。

(3) その他

平岡氏（セコム）が異動のため、R²EC 関連業務を離れることとなり、後任の方については現時点で未定である旨の報告があった。

以上